

## 「全鍍連」2023年12月号 巻頭言

全鍍連 女性経営者部会 部会長 山田 佳代子

(株)九州電化 取締役副社長)

「女性経営者のサバイバル 創業者の想いと歩んだ50年」



全鍍連 女性経営者部会会長を仰せつかっております（株）九州電化の山田でございます。本部会も巻頭言の大役を拝命し、身の引き締まる思いです。

さて、2023年は世界規模で同時発生した自然災害、ウクライナ戦争による物価の高騰、中国の不動産バブル崩壊危機、さらには米中経済摩擦や経済安全保障の懸念など、世界の分断と対立が危惧される複雑で不安定な一年でした。この先の世界や地球がどんな歴史を辿るのか、恐怖も感じております。

しかしながら、我々はまず材料費を始めとするあらゆる経費の高騰や人材不足、物価高騰に見合った賃上げを阻む適正価格要求の難しさなど、目の前の死活問題を乗り越えていかねばなりません。

世界経済フォーラム(WEF)が発表したGlobal Gender Gap Report (世界男女格差報告書)の2023年版では、日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中125位と政治や経済分野で世界水準から完全に置いていかれている状態です。その中でもめっき業界における私たち女性経営者の割合は6%とまさに希少種のレベルです。望んでこの業界に入ったというよりは「家族、親族のため」にやむなく引き継いだ、という立場の経営者がほとんどである中、言葉では語り尽くせぬほどの困難や苦難を経験し、女性ならではの粘り強さと、倒れても折れてはしまわないしなやかさで今を力強く生き抜いている女性経営者の皆様には本当に勇気づけられます。

私自身、50年前に父 吉村 義太 (当時 九州めっき工業組合専務理事)が49歳で急逝した際、大学4年生の若さで世間を何も知らないまま会社に入らざるを得ませんでした。残された家族は専業主婦だった母と高校生の妹、小学生の弟 (現 社長)と私のみ。私自身も父を失った失意の中で葬儀の翌日から会社に行くことを余儀なくされ、幾多の苦難の末に今があります。父は、私にこのような運命が待ち受けていることをまるで予期していたかのように、幼い頃から困難を乗り越える数々の精神論を言い聞かせ、「会社に社員の桃源郷を作りたい」と、その夢を語っておりました。

父の想いを胸に、出産当日まで働き、1ヶ月後には復帰し、必死で子育てをしながらもオイルショック、バブル崩壊、福岡西方沖地震、そしてリーマンショック等なんとか乗り越えてまいりました。会社を牽引してくれる伴侶の存在が大きいです。女性ならではの堅実性と社員の幸せを願う気持ちに裏打ちされた不屈の魂が一助になった面もあるのではないかと自負しております。

少子化が進み、若い人材確保が難しくなる中で、私たちは価値観や仕事観が異なるミレニアル世代・Z世代にとっても魅力あるめっき業界を生き残りをかけて創造していかなければなりません。多様で豊かな社会実現のために不可欠な市場価値をもつ基盤産業、持続可能な地球環境を維持するために最先端産業での機能性をも向上させるめっき技術、その大きなパーパスの実現に寄与しながら自分の人生も充実させられるワークライフバランス、それが可能であることを魅せられるめっき業界にしていくために、今まさに希少種である女性経営者の生き残り戦術を活かせるのではないかと感じております。

亡き父は『同業者が仲良くして共存共栄しなければいけない』と組合の活動に積極的に関わっていたと記憶しています。古希をすぎ、自社の仕組みづくりにも苦戦していることに焦りを感じてはおりますが、女性経営者部会の一員として、また全鍍連の一員として、社員が自分の仕事にやり甲斐を感じ、自分の成長に喜びを感じる、できれば会社の一員であることに誇りを感じる、そんな会社を目指して、そんな盤石のめっき業界の一員として、いつか父のところに行った折には「父が目指した桃源郷・・・やり遂げました」と報告できる人生になるよう、力を尽くしたいと存じます。

来年が、めっき業界にとりまして更なる飛躍の1年となることを切に願いながら、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

